

## 先端的生体計測法と MRI/MRS

西川 弘 恭<sup>1</sup>, 平川 公 義<sup>2</sup>

<sup>1</sup>明治鍼灸大学生理学教室 <sup>2</sup>東京医科歯科大学脳神経外科学教室

MRI/MRS は、長足の進歩を遂げ、なおその発展途上にある。今や、基礎医学や臨床医学を問わず、多くの研究や診療分野において MRI/MRS は、必要不可欠な基本的生体計測法として位置づけられていると言っても過言ではない。このような重要な位置を占めるに至った MRI/MRS は、他の先端的生体計測法の開発、およびその基礎・臨床応用において、種々の重要な役割を果たしている。本特集では、このような MRI/MRS の状況を踏まえて企画された第 26 回日本磁気共鳴医学会大会でのシンポジウム“先端的生体計測法と MRI/MRS”を

紹介するものである。MRI/MRS を用いる先端的生体計測法として、

ポジトロン断層画像法 (PET)

脳磁図 (MEG)

光 CT

電子スピン共鳴法 (ESR)

を取り上げた。これら先端的生体計測法の各事項について、各々講演者により、MRI/MRS の具体的な応用状況とともに、その応用を更に進める上で MRI/MRS に望まれる進歩についての提言が記述された。